

## Atomic Testing Museum を知っていますか？

ニューヨーク事務所

### 米国唯一の原爆博物館 in ラスベガス

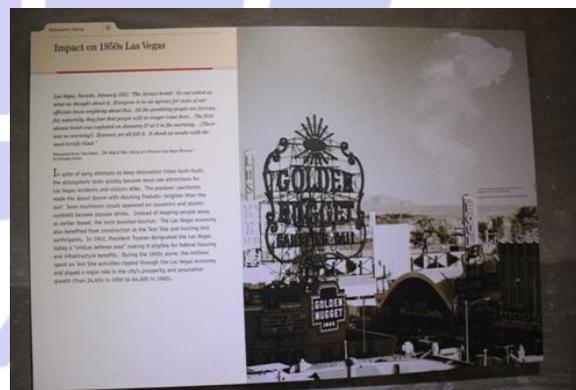
ラスベガスと言えば、カジノ、エンターテイメント、あるいは国立公園グランドキャニオンの玄関口など、観光地としてのイメージが強い。ラスベガスのストリップ地区の中心街から東に 2km の場所に、Atomic Testing Museum があることはあまり知られていない。日本語では「核実験博物館」あるいは「原爆博物館」とも呼ばれる、米国が行った核実験の史実を紹介する博物館である。

### なぜラスベガスに？

そもそも、なぜラスベガスにこの博物館があるのか。それは、ラスベガスのあるネバダ州が米ソ冷戦時代に核実験場となっていたからであり、その核実験場から 100 キロ圏内という至近距離にあるからに他ならない。ネバダ核実験場 (Nevada Test Site) では、1951 年から 1992 年までの間、実に 1,000 回近くの核実験が行われている。当時ラスベガスでは核実験の見学は観光アトラクションの一つであり、博物館には観光客がキノコ雲を「見物」しているポスターも展示してある。



ラスベガスのフラミンゴロード沿いにある Atomic Testing Museum



1950 年代のラスベガス。市街地からキノコ雲が見える。当時はキノコ雲を模したお土産や“Atomic カクテル”というドリンクが人気だったという。

### ヒロシマ・ナガサキについて

博物館を入るとすぐに、米国が第二次世界大戦後、原子爆弾と核開発計画を進めた理由を紹介するビデオが流れ、続いて、ネバダ核実験場開設経緯や、広島・長崎への原爆投下を紹介するパネルなどが展示してある。広島・長崎への原爆投下については、“日本は無条件降伏を要求したポツダム宣言を拒絶した”“核爆弾の使用こそが犠牲者を最小限に抑え戦争を終わらせるものであり、二つの原子爆弾は軍事産業の拠点に対し無警告で投下される

べきと結論づけられた”と言及されている。原爆投下の是非に関する議論や死傷者数を含む被害状況については一切触れられておらず、正に「原爆神話」(早期終戦・人命救助説)そのものが「史実」として解説されている。写真も「グラウンド・ゼロ」の地表のみを写した、ネバダの砂漠地帯での実験場と見紛うようなものであり、視覚的にも悲惨な被爆状況を知ることはできない。



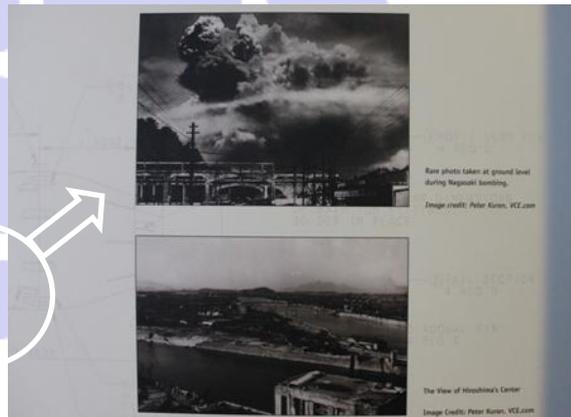
キノコ雲の大型パネルで迎えられる入口



核開発経緯の紹介ビデオでは、被爆後の広島  
の映像も流れるが、瓦礫のみの写真であった。



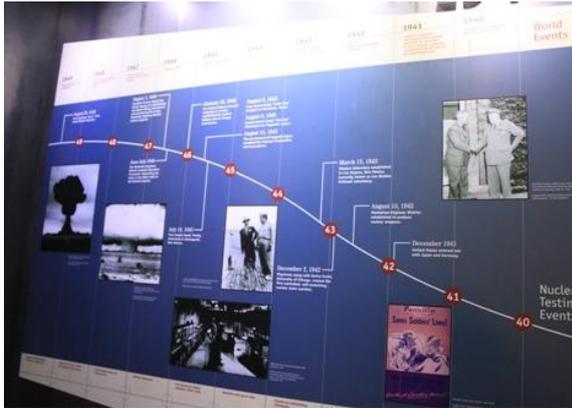
広島・長崎への原爆投下についての説明。何  
もない広島の大地と調査団の一人と思われる  
人物の写った写真が大きく展示されている。



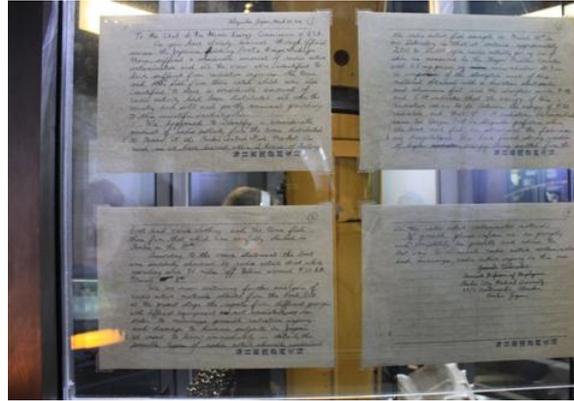
長崎への原爆投下直後の上空(上)と広島  
の爆心地付近の建物倒壊の様子(下)。この写真  
にも被爆者は写っていない。

## グラウンドゼロシアター

米国が半世紀に渡って行ってきた核実験の年表ギャラリー、核実験初期の大気圏内での実験の様子を紹介するギャラリーを通り抜けると、大気圏内核実験を疑似体験できるという「グラウンドゼロシアター」がある。核実験の様子を映像と振動と風で再現したものであるが、キノコ雲の映像だけで実際の原爆被害の悲惨さを想像することは難しいであろう。広島出身の私はそこに座るだけで広島の子供の様子が目に浮かび、その数分は耐えがたい時間であったが、同席していた他の人たちにそのような恐怖の表情は見られなかった。かつてラスベガスにおいて、核実験の見学自体が観光アトラクションの一つであった事実を、真実と認めざるを得ない体験であった。



核実験の歴史と世界史を照らし合わせた年表



ビキニ環礁で米国の水爆実験で被爆した、第五福竜丸に関する資料

### 地下核実験

シアターを通り過ぎると、大気圏内核実験を禁止する 1963 年の部分的核実験禁止条約締結後に行われた、地下核実験を紹介するコーナーがあり、実験場建設の様子や地下核実験の写真パネルが並ぶほか、実験管理責任者へのインタビュー映像が流されている。核実験実施後、おびただしい数のクレーターが生成され、まるで月面ようになった大地や、実験直後に放射性下降物を含む噴煙がクレーターから巻き上がっている写真を見ると、いくら核実験が安全な管理下で行われていた、また必要であったと説明されていても、到底納得できるものではない。恐怖を感じるのは被爆国である日本人だけであろうか。



地下核実験展示室へと続く、地下トンネルを模した通路



地下実験場の様子を写したパネル



放射性降下物を含む噴煙が上がる地下核実験直後の写真（ネバダ核実験場）



原子カロケットの開発についての展示

### 科学技術の発展への貢献

続いて核廃棄物問題を考える環境管理ギャラリー、そして最後は、核開発が科学技術の発展に果たした功績を紹介する革新ギャラリーで締めくくられている。博物館の売店では、キノコ雲をプリントしたTシャツやマグカップ、キーホルダーなどが販売されている。



核廃棄物の埋め立ての様子



地下核実験後おびただしい数のクレーターが生成され、月面ようになったネバダの大地



核爆弾の実物大の模型



売店で売られているキノコ雲をプリントしたTシャツ

## 知ること

私がこの博物館を知ったのは約半年前であった。「原爆神話」が多くの人に信じられている米国にある唯一の原爆に関する博物館と知り、原爆がどのように説明されているのかを知りたいと思い訪問するに至った。

広島原爆被害の現実を知る者にとって、核開発が戦争抑止あるいは科学技術の発展に貢献したとも思わせる展示方法は、日本人の感情を逆なでするものと感じ、展示に見る実験場での従事者及び（見学ツアーに参加した）観光客の放射能に対する無防備な様子は到底理解できないものであった。

この博物館については、原爆による被害あるいは核実験による周辺住民等への放射能被害から目をそらし、核兵器が米国の発展と世界平和にいかに関与したのかを宣伝するものだという批判的な意見がある一方、学術的な資料館として評価するものや、核兵器反対派の抗議デモの写真も展示してあることから中立的なものとする見方もあり、評価は様々である。

様々な立場や考え方がある中で、世界唯一の被爆国である日本人の我々が、米国で核開発が一般市民にどのように紹介されているか現実を知り、この博物館の存在意義を考えることは、広島が訴え続ける世界恒久平和を実現するための、相互理解の第一歩となるのではと考える。

The National Atomic Testing Museum 公式ウェブサイト

<http://www.atomictestingmuseum.org/index.asp>

(牧所長補佐 広島市派遣)

CLAIR